

3.11 大災害から 1年が経ちました。

日本語ボランティア教室ではどのようなことが行われたか!!

東日本大震災の被害状況から全国的に防災に関する意識がさらに高まり、防災対策の見直しがなされています。

福島原発事故では母国からの指示等で、多くの在住外国人が帰国しました。

大震災後9ヶ月が経ち、これまでに日本語ボランティア教室活動で、防災への取り組みや
福島原発事故後の学習者との会話等がどのように行われてきたか、TNVNの会員団体にアンケートで尋ねました。

19団体からの回答を要約しました。今後の活動の参考にしてください。

●回答団体：IWC 国際市民の会 / まちだ地域国際交流協会 / かけはし / にほんごの会くれよん / 小平日本語ボランティアの会 / 西東京市にほんご教室 / 早稲田奉仕団
日本語ボランティアの会 / 中野国際交流協会 / 東久留米にほんごクラス / 南多摩日本語の会 / 府中日本語サロン / すみだにほんごボランティア 21 / こんにちは にほんご
/ 江戸川平井にほんごサークル / 日本語ボランティアあいあい / 初歩日本語 / やさしい日本語 / グッドナイト日本語教室 / 日本語ボランティア 「グループあだち」

防災について

※[]内は団体数

①防災訓練等

活動場所として公共施設・会館等を利用している場合、その施設で全体の防災計画が決められ、それに従って行動をする。但し訓練日が、教室の活動日と一致しないこともあり参加が難しい。

②合同防災訓練への参加

●自治体

- 東京都主催の多摩地区合同防災訓練（平成23年10月29日小平市小金井公園）、品川区内の防災訓練、地元町会・消防署・区防災課と共同で外国人のための防災訓練（10月）等に参加。
- 行政（都・区市主催）の防災訓練への参加を勧める。[2]
- 自治体の集会施設は防火訓練は規則

で定められているが、地震対策はなく町内会の避難訓練に参加を勧めている。避難先は学校。

●市民団体・近隣

- 施設に事務所を持つ団体、近隣小学校、会場として借りている小学校等との合同避難訓練・消火訓練に参加。[3]

③防災センターでの災害体験

- 目黒区地震の学習館、地震の科学館（北区防災センター）、本所防災館等での災害体験見学や防災施設見学。[5]
- 説明者に言葉の不十分な外国人がいることを理解してもらった。

④日本語ボランティア教室では

- 緊急連絡網の作成[2]、や教室での避

難方法の確認[2]等で、災害発生時の対応について話し合っている。

- 学習者の安否確認を迅速に行い代表に報告、帰宅方法はその都度ボランティアが考える。
- 避難場所の地図、多言語防災地図を配布
- 訓練、防災行事には参加するよう積極的に呼びかけ[2]、市作成の「防災講座」を配布・説明
- 活動日に、学習者の防災訓練（行政との連携）や夏休み子ども日本語クラスで避難訓練実施、防災説明会（防災情報をやさしい日本語で説明、防災グッズの展示）を活動計画に予定
- 震災情報のサイトのアドレスを教室に掲示。連絡用のメールアドレス等の再確認。情報源としてテレビを教室に設

置。外国人はそれぞれのネットワークで入手。

- AEDの使い方体験会(救急救命法)の活動予定。伝言ダイヤルの訓練日(毎月1日)に学習日が重なった時に携帯会社別に集まり実践。連絡用に、フェイスブックを開設。
- 地域の日本語教室の役割は日本語学習だけではない。

⑤大震災・防災について学習者との対話から

- 学習者へ地震体験の作文と発表スピーチ、アンケート調査実施[2]
- 学習中に大地震に遭った時の対処法を話し合う。[3]
- 避難所の説明で『自分の家の近くの小学校を探しておくこと、外国人も避難できること』を伝えた。
- 「どこに行けば正しい情報を説明してもらえるのかわからなかった。」
- 正しい情報を伝えることのむずかしさ。

(計画停電の情報など)

- ネットをみれば多言語の説明がある、といわれてもインターネットをしない人もいる。
- 情報をやさしく翻訳しても、時差もあり、役に立たないことが、わかった。
- 今後いざという時に役に立つ簡単な言葉を使ったものを作る必要がある。
- 連絡が取り合えるということの重要性を再認識した。
- 地震発生時、家でとっさにどうしてよいか分からなかった人が多かった。

福島原発事故の後で

※[]内は団体数

①福島原発事故の際、母国からの指示等で、多くの在住外国人が帰国。その後、教室に戻った学習者の割合は

- 0~25%……………6
- 25~50%……………4
- 50~75%……………6
- 80~100%……………3

②教室全体、または学習の場で原発事故の状況等について、話題になったことは

- ある……………17
- ない……………2

③原発事故情報でとくに話題になったこと

(食品関連)

- 水、ミルクなどの飲物……………9
- 米や野菜など農作物……………7
- 魚など魚介類……………4

(原発関連用語)

- 停電……………13
- 放射線量……………7
- セシウム……………4
- エネルギー……………2
- ホットスポット……………1
- 焼却物や廃棄物等……………1

その他……………帰国、避難、節電
(震災関連)

- 地震……………14
- 津波……………9
- 復興……………4
- 絆……………1

その他……………被災者、避難場所、
義援金、助け合い、帰宅難民

④今後、原発事故関連の情報で教室や学習の場で話題にする予定は

- ある……………1
- 必要に応じて……………13
- なし……………3

⑤その他 気付いた点

● 帰国者

- 帰国者は、日本在住期間の短い、おおよそ3年未満の人が多く、日本在住期間が5年以上の人は、比較的少なかった。国別では、中国や韓国の帰国者比率が高かった
- 駐在型の学習者は殆ど帰国したが、日本人と結婚している人は(母国の家族からの誘いがあっても)帰国しなかった。
- 外国人の所属する団体・組織や大使館からの情報・判断が個人の行動に影響

した。

- 原発事故の影響で東京あるいは日本全体が危険地帯と海外では受け止められ、親元から一刻も早く帰れといわれ帰らざるを得なかった。[2]
- 何も言わないで帰国した人たちがいて、喪失感を味わいました。
- 情報・連絡・その他
- ほとんどの外国人は日本の政府は正しい情報を開示していないと疑った。
- 原発事故について、何が正しいか正しくないか判断ができないので、学習者と話し合うことが難しい。言葉の壁もある。行政は分かりやすい日本語で、さまざまな情報を迅速に伝えてほしいと痛感した。
- TVからの情報はわかり難く、インターネットのニュースを読んだ。
- 意外に、日本のテレビでニュースを見ている人が多いと感じた。
- 普段から学習者と担当ボランティアがメールで連絡し合っていたので、緊急時の連絡が思ったよりスムーズにできた。
- 震災停電を機に、震災に負けないようにと、夜間とは別に午後の部を開設して、スタッフ6名 学習者6名で、今月までできています。

まとめ/TNVN

「やさしい日本語」の本質と その必要性

寄稿

一橋大学国際教育センター准教授

庵 功雄
いおり いざ お



現在ニューカマー（新来外国人）と呼ばれる定住外国人の数が増えてきています。その背景には、日本の少子高齢化、生産年齢人口（15～64歳の人口）の長期的減少傾向や人材の移動のグローバル化があります。つまり、成功の場を海外に求めようとする外国人の増加と、外国人の力を必要とする日本社会の要請が同じ方向性を示しているのです。

このように、国境を越えた人材の移動が常態化することがこれからの世界において必然的なものであり、それによって日本社会も大きな恩恵を受けるとすれば、その人たちが日本で自己実現をしていけることを日本社会として保証する必要があります。これは個人の手には余る大きな問題ですが、少しでもその役に立ちたいという気持ちから私たちは「やさしい日本語」という考え方を提案しています（「やさしい日本語」という用語は弘前大学の佐藤和之氏らによるものが知られていますが、以下で言う「やさしい日本語」は庵2009などで定義しているものを指します）。例えば、「高台に逃げろ!」という文がわからないとき、「高いところに逃げてください。」と言えば、外国人への伝達効率はずいぶん上がります。このように日本語を伝わりやすく組み立てたものが「やさしい日本語」です。

「やさしい日本語」は多言語化していない現在の日本において外国人が不利益を被る度合いを減らすためのものです。具体的には、「やさしい日本語」では文法をこれまでの日本語教育で「初級」とされているものと比べて大幅に刈り込んでいます（刈り込みの具体

的な内容については庵2009を参照）。一例として、条件を表す表現には「と、ば、たら、なら」の4種類があり、初級でもその使い分けが問題とされますが、「やさしい日本語」では「たら」だけを採用しています。こうした「一機能一形式」が「やさしい日本語」の特徴です。

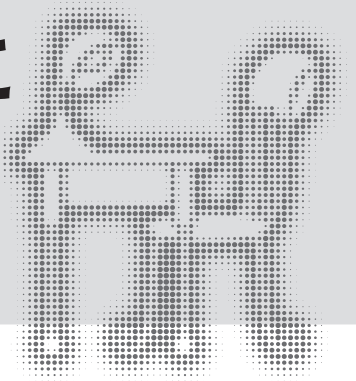
「やさしい日本語」は日本人住民と外国人住民との共通言語としての側面も持っています。これまで日本では、日本社会に参加しようとする外国人に一方的に日本語習得を求めてきました。「ここまで来たら（＝日本人と同じレベルの日本語を習得したら）仲間に入れてあげる」という態度です。しかし、これは対等な立場に立つ市民の交流としては不適切なものです。外国人側にも最低限の日本語習得を求める一方で、日本人側も相手の日本語を理解するように努力をすべきです。そして、そうしたお互いの歩み寄りの中に共通言語として生まれるのが「やさしい日本語」なのです。

こうした「やさしい日本語」のコンセプトを具体的な教材にしたのが『にほんごこれだけ!1,2』（ココ出版）です。この教材では「日本語を教える」のではなく、外国人の方とおしゃべりを行うプロセスの中で自然に文法が身につくというやり方を取っています。

「やさしい日本語」を普及していく際に最も中心となるのは、外国人の方と日々交流されている日本人ボランティアのみなさんです。どうか、「やさしい日本語」を使った外国人の方との交流を楽しんでください。

「わかる日本語」に リライトしました

— 研究会での演習から



はじめに

「わかる日本語」研究会では、日本語レベル初級の外国人が行政情報の内容を理解できる日本語文をどの程度『わかりやすい日本語』で表現すればいいかを検討しています。

研究会では具体的な文例を取り上げ、N5(4級)程度の人を対象に「わかる日本語」にする《リライト演習》を行いました。以下、原文とそのリライト文を例示します。

原文は東京都国際交流委員会のご了解を得て、ホームページ『外国人のための生活ガイド』の一部を使いました。

「わかる日本語」のルール・基準・目安

- 「やさしい日本語」の作成ルール(弘前大学「やさしい日本語」)
- 外国人にやさしい日本語表記の手引き2006(埼玉県総合政策部国際課)

を参考に、「わかる日本語」の表現ルールを設定しました。

今後、検討の過程で「わかる日本語」にする目安等を出していく事としました。

事例演習

『(1) 転ばぬ先の知恵 (2) 病気にならないために』の演習から抜粋。枠内の上段は原文、下段はリライト文(漢字にはルビを振ります)

・前文

病気を防ぐためには、病気や予防策についての知識をもつことが重要です。

日本は夏に高温多湿になるので、食中毒・夏バテ・熱中症に対する注意が必要です。

病気に ならないために 下の ことに 気を つけます。

・食中毒

夏に高温多湿になる日本では、細菌が繁殖しやすく、毎年食中毒の被害が報告されます。

長時間、冷蔵庫に入っていなかった食品は食べない、まな板やふきんなどを除菌するなどの注意と工夫が大切です。

食中毒(悪い 食べものを 食べて 病気になります。)

日本の 夏は とても 暑いです。

食べものが すぐ 悪くなります。

ですから、

- ① 食べものを 冷蔵庫に 入れます。
- ② まな板(写真)や ふきん(写真)を きれいに します。

・夏バテ

近年、特に東京などの都市部ではヒートアイランドと呼ばれる現象がおき、天候だけでなく、エアコンの室外機の排熱や、アスファルトの照り返しなどで、予想外の高温になるケースが増えています。

水分を十分取る一方、冷たい飲み物を取り過ぎない、十分な睡眠をとる、栄養のある食事を取るなど体力を維持する工夫をしましょう。

夏 暑いです。

そのとき、体は 重くなって、力が なくなって、疲れます。

ですから、

- ① 水を たくさん 飲みます。しかし 冷たいものは あまり 飲みません。
- ② 体に いいものを 食べます。

リライト結果から考える

- 1 原文の難しさ(日本語レベル)がリライト後N5(4級)程度の人に分かり易くなっているか。
- 2 初級の人には必要なことだけにする。文の前文(一般的な説明文)を大幅に簡略する。
- 3 語彙や文法・文型の範囲
 - 原文中には、級外、1級、2級の語彙が非常に多い。生活言語や緊急時等で頻度の高い語彙は覚えてもらいたいが、どこまでにするか。
(例) 級外 / 食中毒、夏バテ、長時間、まな板、東京、室外、アスファルト、ヒートアイランド、食べもの
1級 / 細菌、繁殖、照り返し、予想、体力
2級 / 防ぐ、予防、知識、重要、熱中、かゆみ、被害、報告、食品、ふきん、都市部、現象、天候、ケース、水分、睡眠、栄養
 - 難しい語彙は説明文・写真・イラスト等を入れて理解できるようにする。
級外 / 食中毒(説明文)、まな板(写真) 2級 / ふきん(写真)
 - 文法・文型の範囲・目安を整理する必要がある。
- 4 情報発信者の原文が対象者(受信者)に最低限必要な情報として、理解できるリライト文になっているか。発信される情報が発信者の意図をどこまで保持しているかの確認が必要となる。
- 5 リライトの難しさ
原文中の難しい語彙・文法・文型をいかに分かり易くするか、表現の検討が必要となる。



浅草探訪記

浅草の中心仲見世から
奥浅草界隈そして
かつぱ橋道具街へ



食品サンプル

浅草は、ディズニーランドやお台場等を凌いで、外国人観光客が最も多く訪れる観光地として知られています。その浅草の中心は、観音様が奉安されている浅草寺です。

大提灯から仲見世へ

浅草寺の入り口、雷門の大提灯の前に立ちます。人力車での観光を呼び掛ける車夫が客寄せのため、観光客に写真撮影をしてあげながら左右へと行き交っています。車夫に外国人観光客の利用度合いを尋ねました。「1割程度」とのこと。言葉がわからないことなどを考えると、あまり必要感がないのかもしれませんが。大提灯をくぐって仲見世通りへ、観音様への表参道です。

通りの両側には90店舗ほどの土産物屋が立ち並んでいます。民芸品、人形焼き、煎餅、雷おこし、浴衣に法被、下駄や草履、葛飾北斎の模写絵等、各店の前にはお客がひしめき合っていました。北斎の模写店には外国人観光客もよく立ち入るようです。この仲見世通りの活気とにぎわいが浅草を最もよく表わしている情景でしょうか。

観音様にお参り

浅草寺の初詣の人出は全国第3位とか。浅草寺右横の浅草神社、ここは三社祭りの勇壮な神輿で有名です。浅草寺の左手(西側)に入るとレトロな雰囲気

の花やしき(下町の遊園地)や大衆酒場、演芸場、映画館等があります。さらに奥、ひさご通りに、江戸下町伝統工芸館があります。「江戸指物」と言われる箆筒や鏡台などの和具、すだれ、べっ甲、木彫り、組み紐、打刃物などが陳列されており、江戸時代の面影と職人の技術が学習できます。

※指物:木の板を指し合せて組み立てて作った器具
(出典:広辞苑)

奥浅草界隈

言問通りから少し入ったところに見番(浅草三業会館)があります。東京で数少ない花柳界(芸者衆)の世界であり、芸者さんの紹介所です。こちら辺りからが奥浅草(観音うら)と呼ばれ、池波正太郎や樋口一葉ゆかりの場所として知られ、文学散策コースがあります。また、毎年4月には「おいらん道中」が繰り広げられます。



見番(浅草三業会館)

かつぱ橋道具街

かつぱ橋道具街は家庭の台所用品から業務用の厨房施設まで、多くの商品が陳列されています。なかには、コーヒー道具専門店も。古めかしい時代から近代まで、雰囲気がいっぱい漂っている商品が多くあります。どのような方法でどのような器でいただいても美味しそうなお気持ちになります。

食品のなかには“かにかま”など本物に似た類似品が、代用品として使われますが、道具街のサンプル商品は、本物かサンプルか、見分けがつかません。飲食店がお客さん呼び込めるかどうかの貴重なメニュー作品で、蠟・シリコン細工の珍しい職人技で、本物以上に本物に見えます。食品サンプル作りの体験ができ、学習者にもきっと喜ばれます。

浅草は庶民の町

浅草の見どころ、立ち寄りどころはいろいろありますが、探訪も夕暮れ時、灯し火やグラスが恋しくなります。飲み物として、つとに名をはせているのがデンキブランで、有名な浅草駅前の大衆居酒屋で飲めます。店の歴史は古く、およそ100年と言われています。1人でも家族連れでもグループでも立ち寄れる下町の社交場です。今日はデンキブランではなくビールで乾杯。一日の終りを楽しみました。
岩佐:記

■人と人、そのつながりの温もりが支えとなっているのでは

江戸川にほんご交流会B (江戸川区)



私たちの教室は1994年に発足し、18年目になります。教室の場所は、地下鉄東西線の西葛西駅から徒歩3分で来られる大変便利なところ、そこは西葛西図書館!

毎週金曜日夜7時から9時まで勉強しています。ボランティアスタッフは15名。

学習者は震災の影響もあってか、現在30名前後。夜の授業のため、会社員の方が大半を占めています。この点が当会の特徴といえ言えます。

夕食も済ませず教室に駆けつけてくる人、仕事の疲れか、あくびをこらえて授業を受ける人、そんなこんな姿に胸が熱くなります。

振り返ってみれば、震災の当日はちょうど授業のある日でした。参加人数3名。翌週からは、放射能不安で帰国される学習者の方が多くなります。しかし、その後、帰国先から心配の声やたくさんな激励のメールが寄せられてきました。

これを通して、日本語ボランティア教室といっても、日本語を教えるだけでなく、人と人のつながりの温かさ、そして、そこに

ほっとする自分がいることに気付きました。また、この教室が長く続いているのは、人と人、そのつながりの温もりが支えとなっているのではないかと思います。

当会でたくさんの出会いを得ました。感謝しています。

城田 弘道



会員団体紹介

Nice to Meet You

■ 20代から70代！ボランティア同士の異文化交流も魅力！

ことばのひろば (板橋区)

大内 多恵子

—— 「ことばのひろば」二つの活動から ——

ともに学ぶ日本語教室

(活動19年／土曜午後開催
毎月第一土曜は打ち合わせ)

私達は既成のテキストは使わず、学習者に知らせたい生活の知恵、今の日本事情、学習者の希望等をもとに学習内容を決めて教材を作成しています。中級以上の人たちがほとんどですが、日本で暮らしているのに日本語を話す機会が少ないという人が多く、そういう人たちに、日本人と日本語をたくさん話す機会を提供することを目的としています。教材作成時の意見のやりとりは、まさに我々の学ぶ場、「ともに学ぶ」場となっています。



昨春秋、駅や町、あちこちにある注意書きを学習者はわかっているかなとの発想から「身の回りの情報に目を向けて」のテーマで、撮ってきた写真や、区の資料をもとに、いくつかの学習プログラムを組み立てました。

日本語わいわい

(活動3年／月曜午前)

「自由にたくさん日本語を話そう」を目的にしています。異なる国の学習者たちが、時には母国語で補い合いながら日本語でコミュニケーションを取っている風景はほほえましく、それぞれの話したい内容によって話題がどの方向に行くのか臨機応変に対応しなければならないのでいつもスリルがあります。そんな中から昨年末、お互いの自慢料理のレシピができました。会話の幅を広げる手助けと共に、この時間、この場所に来ればだれかに会える、たくさん話せる、そんな心のより所になって行けたらと願っています。

学習者の声

ありがとうJUNIOR NCC

キム・スンヒエ／韓国
西大井日本語サークル(NJC)／品川区

私は主人の仕事で、韓国から日本に来ました。それからもう7年も過ぎています。

日本に来る前は、子供達が日本の生活に早く馴染めるか、いじめなどはないかなど、とても不安でした。でも、思った以上に早く慣れたのでほっとしました。

私が西大井日本語サークルに通い始めたのは、日本に来て1年経ったころだと思います。それから6年間ほとんど休まずに通いました。来日から1年半過ぎたころに日本語能力試験1級を受け、たった一度で受かりました。私なりに頑張ったんですよ!周囲からは、もうやめてもいいんじゃない?言われたけど、韓国に帰るまでずっと勉強しようと決めていたのでその通りになりました。

私はこの3月に韓国に帰ります。今、振り返ってみると、日本での生活は楽しいことが色々ありました。日本の友だちが出来たし日本語も上手になりました。自転車に上手に乗れるようになったし、箱根や日光に旅行にも行きました。まだ行きたい所はたくさん残っています

が、それは母国に帰ってから、将来の楽しい旅行先としてとっておくことにしました。また、日本にいる間に父と姑を亡くするという悲しいこともありました。

思ったより長く母国や親兄弟と離れていたのが、帰国をととても楽しみにしています。そして子供達がある程度成長したら、私も日本語教室の先生方のように、韓国に来ている外国人のために役に立つ仕事もしてみたいです。

『先生、今までお世話になりました。本当にありがとうございます。せっかく覚えた日本語を忘れないように頑張ります。先生もたまには私のことを思い出して下さいね!!お元気で…』



右がキムさん

日本語ボランティアの現場から

ボランティアの声

森本明美／西大井日本語サークル(NJC)／品川区

ささやかな草の根交流を続けて

西大井日本語サークルは、ボランティアサークルとして発足13年を迎え、品川区の地域交流センターで日本語教室を開いています。

現在、ボランティア約10名に、学習者15名程と小規模ですが、学習者は母国語のみ解するプエルトリコ人の陽気なヤングミセスから、ボランティアとボケとツッコミが出来るくらい上達した人まで様々です。

少人数の利点を生かし、1対1の授業が多いので、お子さんの幼稚園のお知らせが持ち込まれたり、簡単なビジネス文書の書き方を尋ねられたりと、色々なことが出て来ます。

ある時は、テレビのバラエティ番組から、

「どや顔」の意味を聞かれ、これには、この方面に疎い中高年のボランティアの面々が額を寄せ集めて悩んだものです。

現在は、配偶者が日本人でずっと日本に住む予定の学習者が多いので、スムーズに日本の社会や生活習慣に馴染めるように、また、仕事を希望する学習者には、就職に出来るだけ役立つような支援も心掛けています。

私たちの楽しみは、何と言っても毎年12月の忘年会です。食べ物は豪華と言うわけには行きませんが、お寿司やサンドイッチ、お菓子などを囲んで楽しいひと時を過ごします。お国自慢や故郷の歌、季節外れの日本の盆踊りを輪になって踊ったりと、一同、ちょっと羽目を外して一年の勉強納め(?)をします。

ご他聞にもれず、ボランティアの年齢の上昇が悩みの種ですが、嬉しいことに最近少しずつ若手の仲間が加わり、その方たちに引き継いで貰うためにも、もう一踏張りせねば、と思っています。



忘年会にて

◎ 2011 年度の総会と講演会を開きます。

TNVN 2011年度の活動も会員皆様をはじめ、多くの方々のご支援・ご協力で行うことができました。

3.11 東日本大震災・福島原発事故でボランティア日本語教室もこれまでにない経験をしました。

右記のとおりTNVNの2011年度総会を開きます。普段はTNVN会員の皆様が集い、顔が見える意見交換や情報交換をする機会がなかなかありません。是非この機会にご参加ください。お待ちしております。

また、庵功雄准教授(一橋大学国際教育センター・言語社会研究科)のご講演をお願いしています。「やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究」に携わっておられます。日本語教材「にほんご これだけ! 1・2」の監修をされています。

- ◆ 総会
日時:2012年4月22日(日)
午後/1時 ~ 2時
- ◆ 講演会と意見交換会
午後/2時 ~ 4時
- ◆ 場所
東京ボランティア市民活動センター
B会議室
新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザビル 10階

◎江戸吉原おいらん道中

本号5ページの「浅草探訪記」に載っている「おいらん道中」が2012年4月14日(土)浅草観音裏の小松橋通りを中心に行われ、満開の一葉桜の下を、花魁^{おいらん}と禿^{かむろ}に扮した一行が練り歩き

ます。外国人の見物客も興味深げ。詳しくは下記HPで。動画もあります。

- 浅草観音うら 一葉桜振興会
<http://www.asakusa-kannonura.com>

「わたしの国ナイジェリア」の記事についてのお詫び

ネットワークニュース76号の「わたしの国ナイジェリア」の写真について、紹介者のブロスパー・エネモー氏から「記事の写真は母国ナイジェリアの写真とは思えない。市場や動物の写真のイメージはマイナス面の要素もあり、偏見等の材料にもなりうる。近年ナイジェリアの都市部では近代的建築物や文化施設が建てられ、人々も高い水準の教育を受けている」とのご意見、ご指摘をいただきました。編集者はナイジェリアの写真を探せずに、アフリカをイメージする画像を採用したものでした。ごもっともなご意見であり、ブロスパー・エネモー氏をはじめ関係者の方々にお詫びを申し上げます。また今後の記事の

作成に当たっては、ご要望に応え慎重な取り扱いに留意したいと思っております。下記のようなことを考えています。(1) 今後画像等の掲載にあたっては、画像が及ぼす影響を考慮し、記事に沿った正確な情報を伝えるものを使用する。(2) 今回掲載した画像は今後使用しない。(3) 「わたしの国」の写真については、その国の写真、無ければその国に関係する例えば大使館等の写真だけを使う。以上の3点を守りたいと思っています。私達は今回の貴重な経験から各々の学習者の母国の実情をさらに多く知り、異文化理解を深め、多文化共生の活動を進めていくこととします。 東京日本語ボランティア・ネットワーク

column ◆ **猫**

我が家の猫(4歳・オス)は、一体どれだけのコミュニケーションができるか。

もちろん自分の名前は分かるようだ。呼べば「にゃー」と返事する(しない時もある)。

餌がほしい時、「この手で餌ちょうだい」と私の手を甘噛みする。ベランダに出たいので窓を開けてほしい時、同じく手を噛む。ベランダに出るのは、外を眺めるか、猫草を食べるためである。私と遊びたい時、私の背中を肉球でちょんちょんと叩く。

眠い時は勝手に

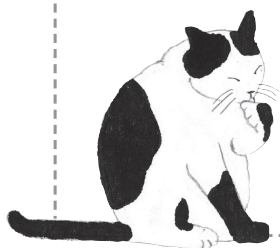
寝る。

物書き中に「撫でてくれ」と膝に乗ってきたので、左手で撫でたら、「こっちの手でも撫でろ」と私の右手を噛む。獲物(蝶やヤモリ、時に子雀)を捕らえた時、「おいらの獲物だぜ」と見せびらかす。

猫は代名詞を理解しない。毛糸玉を投げると犬みたいに走って取ってくるが、球を見失うことがあり「あっちにあるよ」と指さしてもあっちを向かず「また投げて」と私の手をみる。

猫は面白くて可愛い。が、旅の敵である。

(O.M)



TNVN 東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆ 日時: 毎週金曜日
第1、第3 金曜日/午後2時~4時
第2、第4 金曜日/午後2時~6時
第5 金曜日/休み
- ◆ 場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー
- ◆ 日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでの問い合わせにもお応えしています。
ご意見もお待ちしています。
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4
● TEL: 03-3235-1171
(呼出: 金曜日活動時間帯のみ)
● FAX: 03-3235-0050
● E-mail: webadmin@tnvn.jp
● URL: <http://www.tnvn.jp/>
● 郵便局払込
口座番号: 00100-1-719259
加入者名: 東京日本語ボランティア・ネットワーク
- 会員数(2012年2月24日現在)
正会員: 88団体、団体協力会員: 2団体
個人協力会員: 26名、賛助会員: 4団体
- 編集/岩佐 幹彦、大木 千冬
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子
● レイアウト/鶴田 環恵